

会 議 議 事 録

会 議 名	令和 6 年度 学校関係者評価委員会		
開 催 日 時	2024 年 5 月 17 日 (金) 14:00～16:00		
会 場	東京福祉専門学校 第 3 校舎 2-4 教室		
参 加 者	委員等	8 人	卒業生代表：西田 憲司様（特別養護老人ホームきく） 保護者代表：澳津 優子様（こども保育科 2 年生在籍） 高等学校代表：高部 英彦様（正則学園高等学校） 地域代表：赤羽根 智英子様（くすのき さざなみ会） 業界関係者：池田めぐみ様（特養なぎさ和楽苑） ：若松 弘樹様（児童養護施設聖友学園） ：皆川 隆太様（就労移行支援事業所 natura） ：中里 武史様（東京都作業療法士会）
	事務局	12 人	東京福祉専門学校 学校長 小林 和弘 副学校長 白井 孝子 運営本部長 結城 健二（学校法人滋慶学園評議員） 事務局長 松川 勝吉 事務局次長・教務部長 菊池 紀子 広報センター長 小泉 佳代 産学連携推進センター長 石岡 真典 教務事務・学生サービスセンター長 坂本 美生 書記 吉岡 修平
会 議 録	1. 学校長挨拶（小林） 東京福祉専門学校の運営にお力添えをいただき頂戴いたしまして感謝申し上げます。 新型コロナも 5 類になってから 1 年が経ち学校運営も平常時に戻りつつある。入学式も両国国技館にて合同で行うことができ、元に戻ってきたなと思っております。 医療関係、介護福祉関係共に人で不足が続いている。 病院関係では看護師さんの不足、特養では介護職ケアマネジャーが本当に足りていない。 福祉医療分野の人材確保が課題になっていると思っています。 新卒の学生を入れたいと思いはどこの企業も考えているが数が足りないと状況。東京福祉専門学校でも即戦力となる学生を業界に送り出していけるようにしていく。 教育 DX もどんどん進めていかなければならないと考え取り組んでいる。 第 3 者の目で我々の学校教育がどういう状況にあるかというのを評価いただく貴重な機会と思っています。正しく評価をしていただき、様々なご意見を頂戴したいと		

考えており学校教育に活かしてまいりたいと思っております。どうぞよろしくお願い致します。

2. 2023 年度事業報告（松川）

●学校概要

職業実践専門課程として認可を受けるには自己点検自己評価を行いその上で学校関係者評価委員会を年 2 回行い、その内容を次年度の事業計画に活かしていくという物になります。もう一つ教育課程編成委員会というものを学科毎にカリキュラムを来年どうしていくかという会議を業界の方にお越しいただき行っています。評価表に沿ってご説明をさせていただき、ご意見評価をいただくという物になりますのでよろしくお願い致します。

○組織目的

本校は福祉に関わる人材を養成する教育機関から、福祉・リハビリ・保育などを中心とした業界（卒業生）との様々な形での連携によってそれらを繋げる人材を輩出する「社会と福祉のネットワーク」機関を目指す。

そのために関連業界の変化をはじめ、DX・デジタル・ロボティクスなど、社会の変化に対応した「新しい福祉の学び」や「現場体験プログラム」を積極的・継続的に開発し、顧客満足度（CS）の高い教育を提供し続ける。

また、ひとり一人が強みを成果に活かし、成長によりチームへの貢献を感じられ、成果を称賛し合う運営を通じて職員満足度（ES）の高い組織となる。

2023 年事業報告

・入学者数

社会福祉科：21 名 心理カウンセラー科 43 名 社会福祉士一般養成科：53 名
こどもソーシャルワーカー科 7 名 介護福祉士科：60 名 作業療法士科：16 名
こども保育科：46 名 キャリアデザイン科：36 名 総学生数：670 名
社会福祉科、こどもソーシャルワーカー科、作業療法士科、こども保育科は募集が厳しい状況だった。

運営をコンパクト化するために夜間部の募集を停止している。

またこども保育科の募集も中止となる。

・中途退学者数

社会福祉科：13 名 IT 医療ソーシャルワーカー科：1 名
心理カウンセラー科：9 名 社会福祉士一般養成科：1 名
介護福祉士科：4 名 作業療法士科昼間部：9 名
作業療法士科夜間部：3 名 こども保育科昼間：6 名
こども保育科夜間主：3 名 キャリアデザイン科：3 名
総学生数：52 名（6.9%）

2022 年度 68 名（7.9%）

学校全体としては昨年より改善の兆しが見えた。

・国家試験合格率（新卒）

社会福祉士（4年制）：81.5% 社会福祉士（一般養成）：100%

精神保健福祉士（4年制）：59.1%

作業療法士（昼間部）（夜間部）：92.3%

介護福祉士（2年制）：100% 介護福祉士（2年制・留学生）：77.8%

精神保健福祉士（4年制）のみ全国を下回ってしまっているが全体的には昨年を上回る事が出来ている。

3. 自己点検項目説明（配布資料参照）

●教育理念・目的・育成人材像（松川）

理念・目的・育成人材像：3

3つの建学の理念

実学教育、人間教育、国際教育を学園の理念としても掲げております。

組織目的、育成人材像

多様な人や地域に応じたサービス提供を行うための変化・変革が迫られている福祉業界で、変化に対応しながら、それぞれの現場におけるニーズに対応できる「主体性」と「協働する力」を備えた、業界をリードする（良い影響を与える）「学び続ける人材」の育成を目指す。

●学校運営（松川）

運営方針：3

事業計画：3

運営組織：3

「事業計画」にて単年度～5ヵ年の運営方針や組織を見直している。

各部署の会議による決定を最高議決機関である「運営会議」で承認。

人事・給与制度：3

2021年度より新人事給与制度を実施。HRMOSというWEBシステムを活用している。

意思決定システム：3

各部署の会議による決定を最高議決機関である「運営会議」で承認

情報システム：3

クラウド上で運用できる「業務システム」や「サイボウズ ガルーン」、「Microsoft Teams」などの各種情報システムを活用している。

●教育活動（菊池）

目標の設定：3

教育方針・評価：3

学科ごとに毎年、関連業界や社会のニーズを踏まえて「教育目標」「養成目的」を設定し、学生便覧で明示している。また、各学部で教育課程編成委員会を組織して関連業界からの意見を取り入れている。

成績評価・単位認定：3

成績評価に関する規定は学生便覧等に明示しており、卒業・進級判定会議を通じ

て認定をしている。

成績は学生だけではなく、教育に問題がある可能性がある為、授業アンケート・モチベーションアンケートを実施し、授業改革を行っている。

資格・免許等の指導体制：3

国家試験を受験する学科については毎年合格率の目標を設定し、指導している。コロナ禍において、オンラインでの学習効果の検証や多様な学生に対する指導体制に関してまだ課題がある。

教員・教員組織：2

専修学校基準や養成施設基準に合致した教員を配置しており、各学部は学部長を責任者とした体制をとっている。しかし、教職員の質の向上への取り組みに関しては、コロナ禍で研修等が中止になったりなど、今後さらなる取り組みが必要となっている。

●学修成果（石岡）

就職率：2

「職業人教育を通じて社会に貢献する人材育成」を目指し 98%の専門職就職を達成することができている。しかし、福祉人材が不足している状況が続いており、100%の学生が業界で活躍できるようにしていきたい。

資格免許の取得率：2

国家試験合格率については、社会福祉士一般養成科は100%の合格率になるなど、多くの学科で全国平均を上回っている。

卒業生の社会的評価：3

卒業生の1年未満の離職率は2%であり、卒業生の社会的評価は向上していると考えられる。

●学生支援（菊池）

就職等進路：3

中途退学者への対応：2

多様化する入学生の層に対してチームでどのようにアプローチしていくかが課題であり、2023年度は特に1年生に対し、学科を超えたチームで退学を防止していく取り組みを行っている。

学生相談：3

学生生活：3

保護者との連携：3

今までは電話やお手紙であったが『学生ポータルサイト』を通じてオンタイムで見えていただく事が出来るツールを活用し保護者と連携を図っていく。

卒業生・社会人：3

卒業後の就職支援については「生涯就職支援システム」として運用されている。後はオンラインやDX・同窓生をフルに活用し、学園で運営するJCareerSchoolの情報を頻繁に共有していき、卒後支援を充実させていく。

●教育環境（坂本）

施設・設備等：3

2024 年度開講に向けて、第 3 校舎の改装および清掃・整頓を行った。
職員の意識改革も同時に行った。

学外実習・インターンシップ等：3

防災・安全管理：3

防災訓練：2022 年度学生は動画視聴のみであったが 2023 年度は実際に実際に避難経路を確認しながら避難場所まで避難するシュミレーションができた。

●学生の募集と受け入れ（小泉）

学生募集活動：2

コメディカル分野・リハビリ分野の志望者数減少、大学志望者数の増加に伴い、作業療法士科の入学生が引き続き減少。次年度修業年限の変更（3 年制から 4 年制へ）を予定。新型コロナウイルス感染拡大以降減少していた留学生の入学者が、入国可能になったことにより増加。

入学選考：3

大学の入試制度を鑑み、AO 入試制度の名称変更予定。

学納金：3

入学選考や学納金は募集要項に明記している。見直しが必要な場合、その根拠が適正であるかを理事会・評議員会で決議し、決定している。

●財務（松川）

財務基盤：3

予算・収支計画：3

財務状況においては専門部署とともに予算の執行状況を分析・把握しており問題はない。

監査：3

財務情報の公開：3

法令にもとづき適切な監査を実施おり、財務状況については毎年決算終了後にホームページ上で公開を予定している。

●法令等の遵守（石岡）

関係法令、設置基準等の遵守：3

学学校運営に関係する法令・設置基準は順守しており、申請・届け出等も都度実施されている。

2022 年 1 月よりコンプライアンスに関わる専門部署を設置。学園本部とも連携し、法令順守の精度向上に努めている。また年 3 回コンプライアンスに関連する研修を実施し、職員の知識向上を図っている。

個人情報保護：3

個人情報保護については、日本プライバシー認証機構による全職員向けの研修会を毎年実施している。

学校評価：3

教育情報の公開：3

ホームページ上で公開を予定している。

●社会貢献・地域貢献（菊池）

地域貢献・地域貢献：3

地域共生社会構築の拠点として江戸川区より委託を受けている「なごみの家」「地域活動相談・支援センターかさい」や地域のこどもたちと保護者に対してプログラムを提供する「こども教室」など地域に根差した貢献活動に積極的に取り組んでいる。これらの事業は地域貢献だけではなく学生が現場実践力を身につける貴重な学習の場としても機能している。

江戸川区からは潜在的介護人材の職場復帰や介護者の不安を軽減することを目的とした「介護はじめてセミナー」「介護の担い手研修」を委託され運営し、行政と連携した地域貢献をおこなっている。

ボランティア活動：3

ボランティア活動はコロナ禍のために大きな動きはできなかったが、「高齢者のためのスマホ教室」などいくつかの取り組みは実施できた。

4. 委員からの質問、ご意見

西田様

介護福祉士科の留学生国試合格率の上昇は素晴らしい成果だと思います。社会福祉士については学科における学生の基本モチベーションに差があるように思える。今後の「地域共生」や「多様性」社会を考えると養成校から社会福祉士の地位向上や重要性のPRが必要になっていくと思う。

江戸川区との介護フェア等行政とのタイアップは今後も継続をきたいしたい。

高部様

学校生活において入学前・在学中・卒業後と行われており、教育だけでなく心理面、生活面に対してしどうされており、安心、安全を持って過ごせると思う。特に退学者の減少はとても素晴らしい。

江戸川区は福祉の充実を目指している。機構が区から委託により社会・地域に貢献している事は素晴らしい。民生児童委員として江戸川区の福祉に携わっているので今後も協力をしていきたい。

赤羽根様

入学式での学生と合同の身障者の方の発表もとてもいい発表だった。なかなかコロナ禍から元に戻れずいるが今後も変わらずスマホ教室等関りを継続していきたい。

澳津様

学生が将来の方向性に悩んでいる際にしっかりと話を聞き、学生だけでなく、保護者との連携も図れている。

池田様

介護報酬が改善され処遇改善されたのは良い兆しだと思っている。その一方で手当の格差が出やすくなっている。

留学生は生活レベルの会話はできるようになっているが専門用語に関する理解が

まだまだ低い。

一つの資格だけでは厳しくなっている。介護福祉士もより専門性を求められるようになってきており複数の資格を持っている方が幅が広くやれることが多い。

学校の新しい取り組みに良い刺激をいただけた。学生さんが福祉、介護、医療業界に興味を持っていたける事を専門職側発信や学校側と連携を図っていけると良いのかなと思いました。これから人口自体も減ってくる学生も減ってくる特別養護老人ホームもどれだけ存続ができるかという時代になっていくと思う。

皆川様

経営も携わっていて自分たちの取り組みをどのようにブランド化していくか等考えますし、地域貢献も考えたりする。

入学前の取り組みは事業所でも活かせる内容が沢山あった。Natura でもプレnatura などやってみてもいいと思えた。

SDGs の学生の取り組みも一緒にやっていく事も出来るんじゃないかと思いました。

より社会で活躍できる時間をお手伝いできると良いと思いました。

若松様

人材をいかに確保するかが重要となっている。職員を大切にする視点をもって人が辞めない環境を意識している。

多機能、多角的視点を持つために色々な事を広く展開しようとしていく中で、人材はどうにかしなくてはいけない項目となっている。学生さんの数は減っていく一方で学校さんは中長期の視点でどう確保するかというのはとても勉強になった。

中里様

作業療法士の処遇が変わっていないところからなり手が少なくなっている。このまま下火になるのではなく、盛り上げていきたいと思っています。

コロナ禍からお話を伺っていてその時の大変さも聞いていて国家試験の合格率が向上したのはすごいと感じました。個人で勉強をするというのは限界があるんだと思っていた中で徐々に集まれるようになって今回の成果になっているんじゃないかと思った。学校としての仲間がいての学び、教育はすごく重要だと感じた。自分だけでなく周りに仲間がいるという環境づくりが出来ていくとより良い人材が輩出されていくと感じた。

5. 終わりに（結城）

本日はありがとうございました。貴重なご意見をいただき、参考になりました。学校も長いスパンを見ながら運営をしているが、保育園がすでになってきているが定員割れをしている保育園が出てきている。その年代がずっと学校に来ると18年後は一学年が70万人を切るくらいの人数になってくる。業界の方々をみると団塊世代にあった世代が後期高齢者になっていき、いなくなっていくと福祉の施設も病院も淘汰されていく時代が来るのではないかと思います。日本全体を見渡す時に短絡的に学校運営だけではなく、業界発展を考えていくと先々の事を見ながら皆様とご意見を交わしてどうしていくかを考えていかなければならないと思う。学園理事長も言っているが大学全入時代を向かえながらも専門学校はなくなる事はない。顧客満足度が得られるところが残れる時代になってくるのでしっかりと卒業生、在校生、高校生の事を見ながら運営をしていく。

	以上
--	----